

2020年10月期第3四半期 決算説明会

2020年9月15日

パーク24株式会社

取締役 専務執行役員 経営企画本部長

佐々木 賢一



PARK24 GROUP

東証一部	4666
Ticker Symbol	PKCOY

新型コロナウイルス感染症によりお亡くなりになられた方々に謹んで
お悔やみ申し上げますとともに、罹患された方々及び感染拡大により
困難な生活環境におられる皆様に、心よりお見舞い申し上げます。

また、過酷な状況下において活動されている医療従事者をはじめ、
感染防止に奮励されている方々、社会や生活の安定に必要な事業
に携わられている方々のご尽力に心より感謝申し上げます。

新型コロナウイルス感染症の影響により、第3四半期累計実績は赤字決算

(単位：億円)

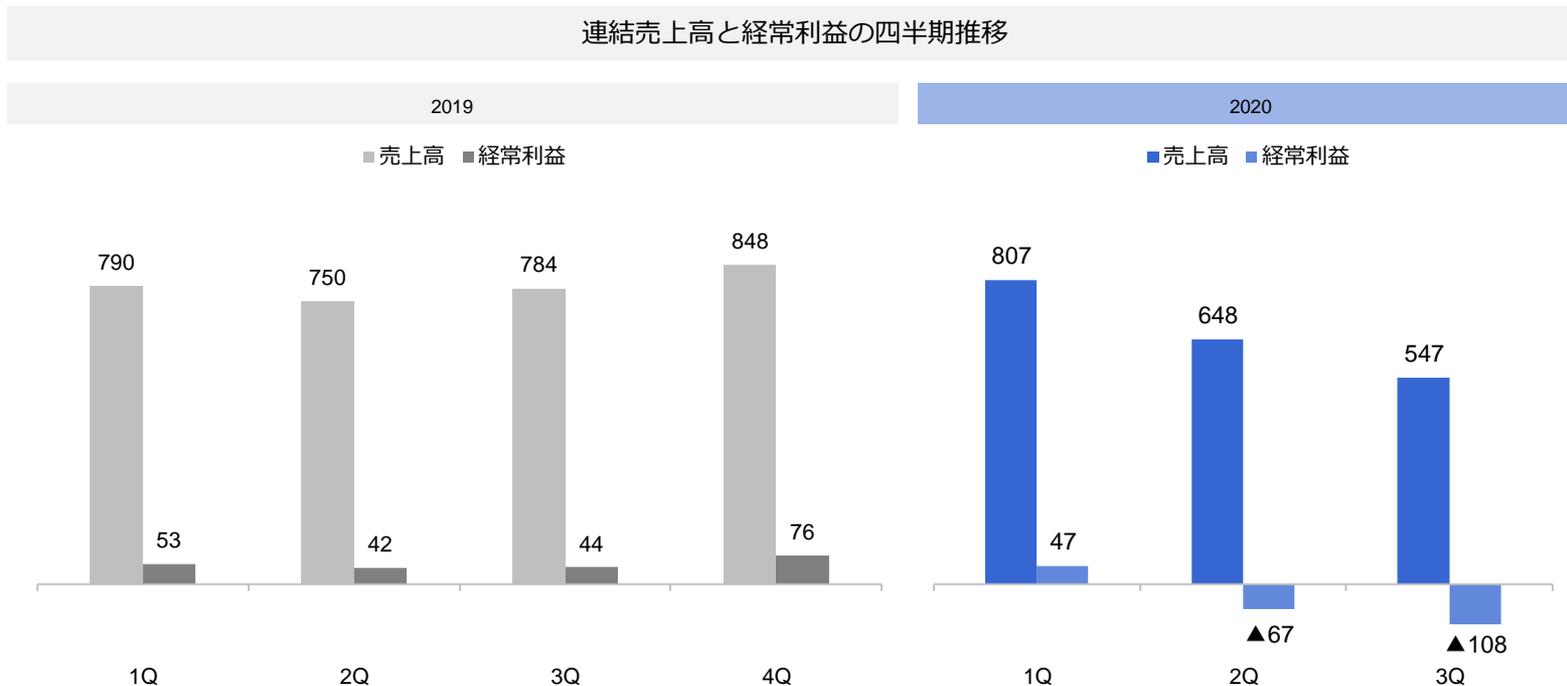
	20/10実績 第3四半期累	19/10実績			20/10当初計画			20/10修正計画		
		第3四半期累	差額	比率	第3四半期累	差額	比率	第3四半期累	差額	比率
売上高	2,004	2,326	▲321	86.2%	2,433	▲428	82.4%	1,955	+49	102.5%
売上総利益	265	553	▲287	48.0%	607	▲341	43.7%	189	+75	140.1%
営業利益又は営業損失(▲)	▲118	146	▲264	-%	168	▲286	-%	▲224	+106	-%
経常利益又は経常損失(▲)	▲128	139	▲267	-%	160	▲288	-%	▲227	+99	-%
親会社株主に帰属する四半期純利益又は四半期純損失(▲)	▲122	78	▲200	-%	102	▲224	-%	-	-	-%
海外のれん等*の償却額	20	22	▲1	94.3%	21	▲0	96.2%	-	-	-
海外のれん等*の償却前 経常利益又は経常損失(▲)	▲107	161	▲269	-%	181	▲289	-	-	-	-

* のれん+契約関連無形資産

- ▶ 2020年6月15日公表の修正計画に対して、売上高・各段階利益または損失ともに上振れて着地するも、営業損失以下の赤字額は2Q比で大幅増

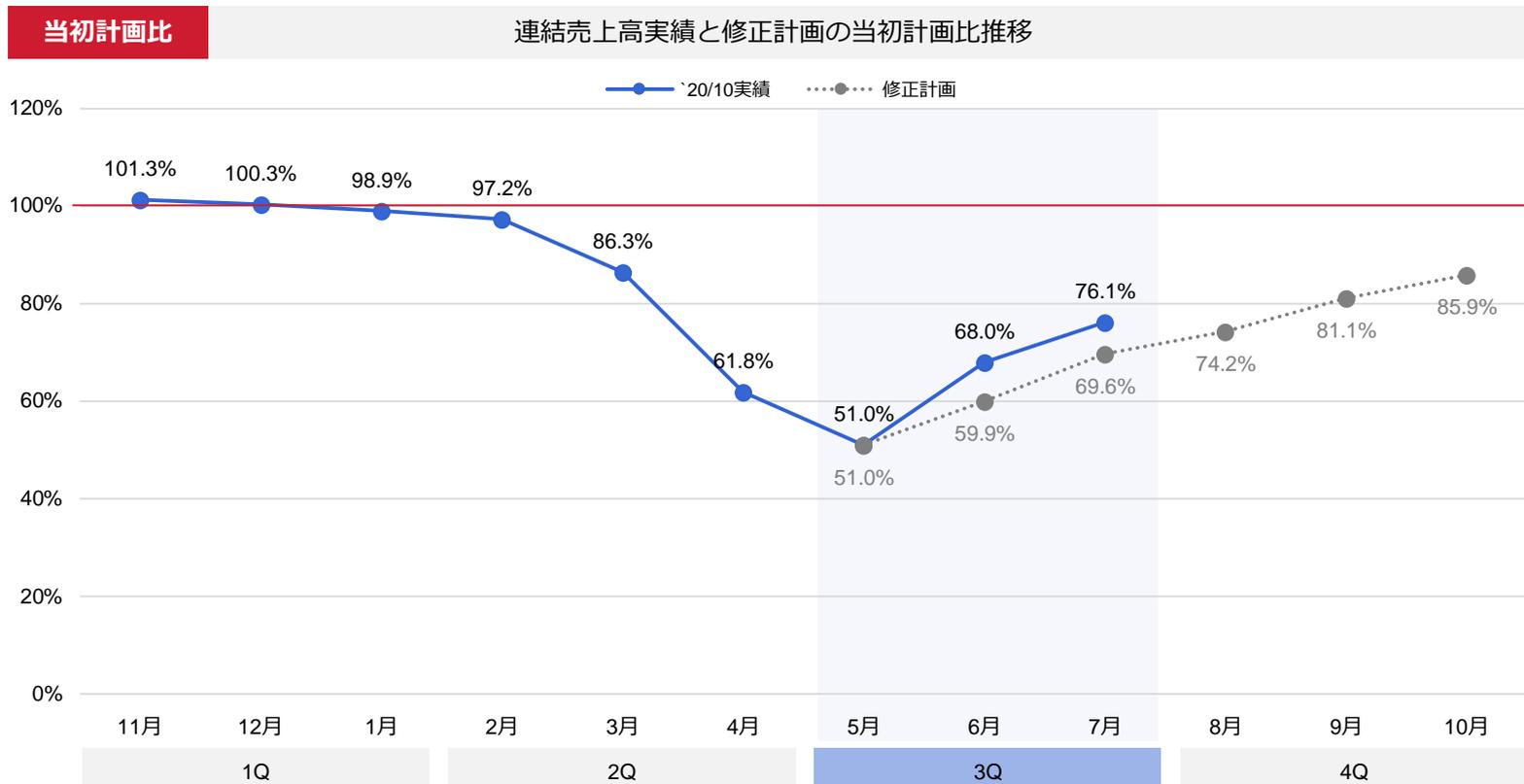
第3四半期期間(5-7月)は大幅減収、大幅赤字

連結売上高と経常利益の四半期推移

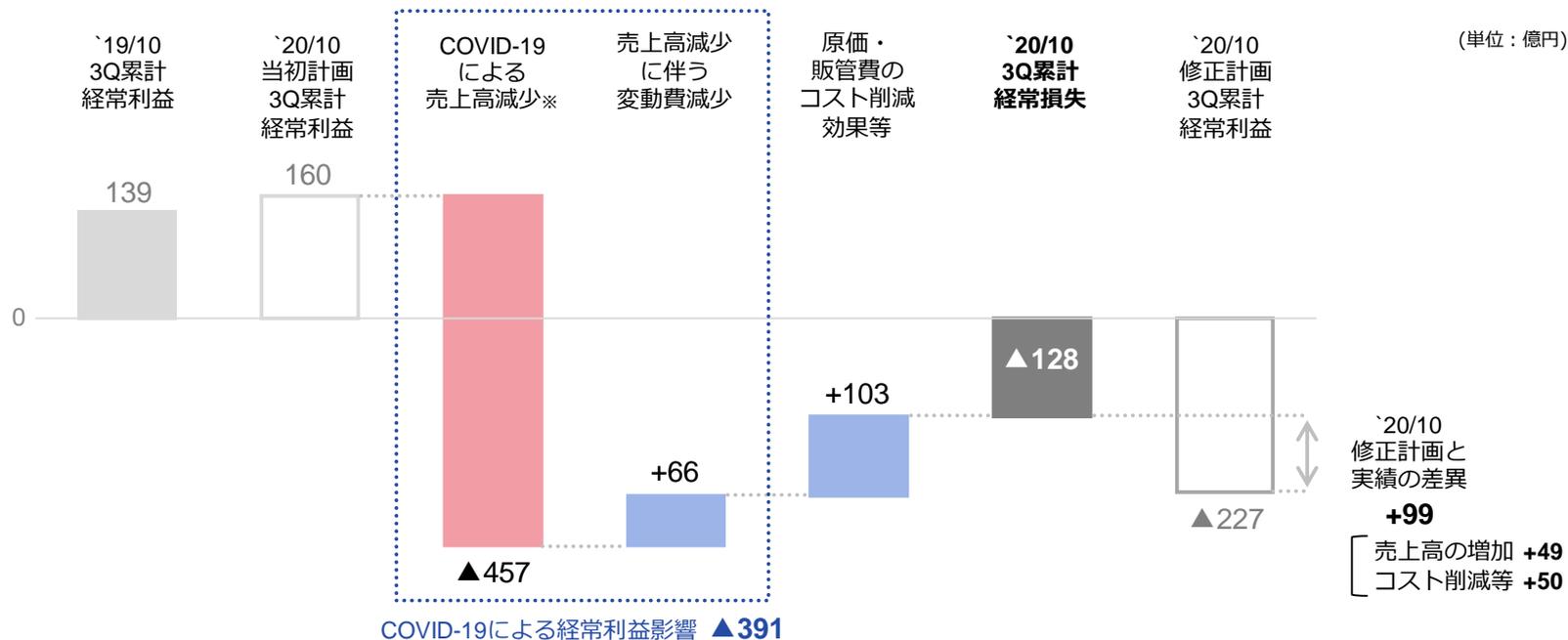


- ▶ 1Qは2019年10月の消費増税の対応及びその影響により、前年同期比減益となるも当初計画を超過
- ▶ 2Qから新型コロナウイルス感染症(以下、COVID-19)拡大の影響で人の移動が減少、伴って各サービスの利用が減少し減収、経常損失に転落
- ▶ 3Qは全サービスの稼働の最低月(国内事業5月、海外事業4-5月)が含まれるため、四半期の中でも売上高は最低、経常損失は最大

第3四半期期間 6-7月の連結売上高は修正計画比超で推移



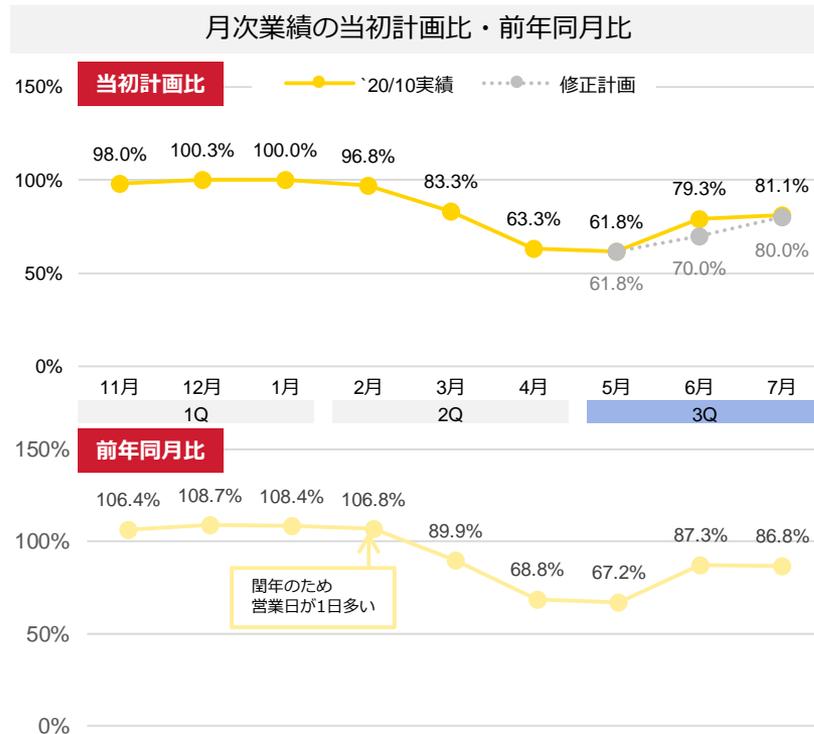
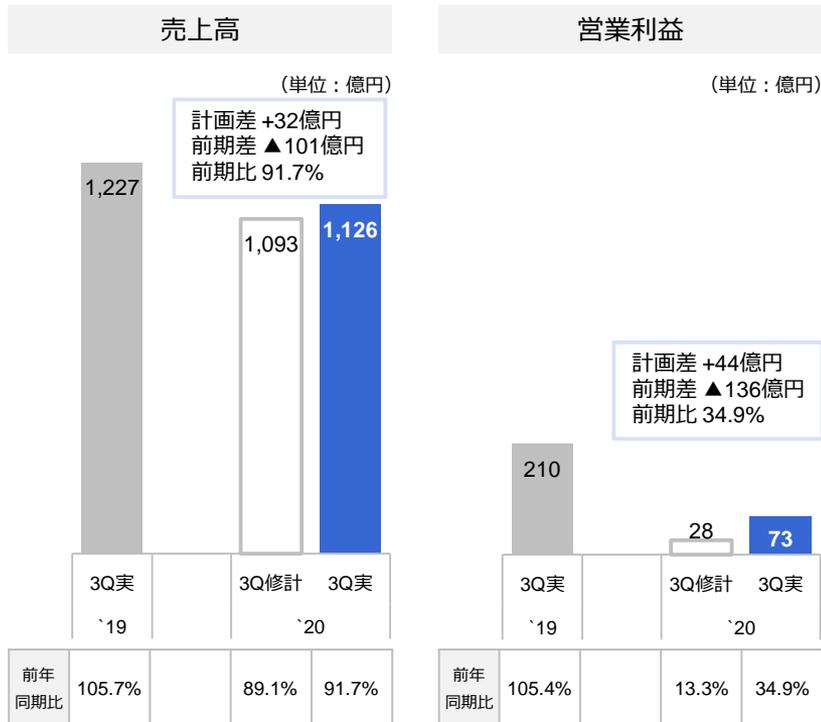
経常利益 当初計画と実績及び修正計画と実績の差異分析



- ▶ 売上高減少に伴う変動費等はモビリティサービスの燃料費や駐車場の売上連動地代家賃等
- ▶ 原価のコスト削減は、駐車場事業の地代家賃改定、管理・メンテナンス費用の見直し等
- ▶ 販管費のコスト削減は、取締役をはじめとする人件費抑制、ICTシステム関連投資の抑制等

※「COVID-19による売上高減少額▲457億円」と3ページの「20/10計画差額▲428億円」の差は、売上高実績が当初計画より上振れたことによるもの

売上高は5月を底に回復基調、6月は想定以上の回復、7月はほぼ想定通りの回復

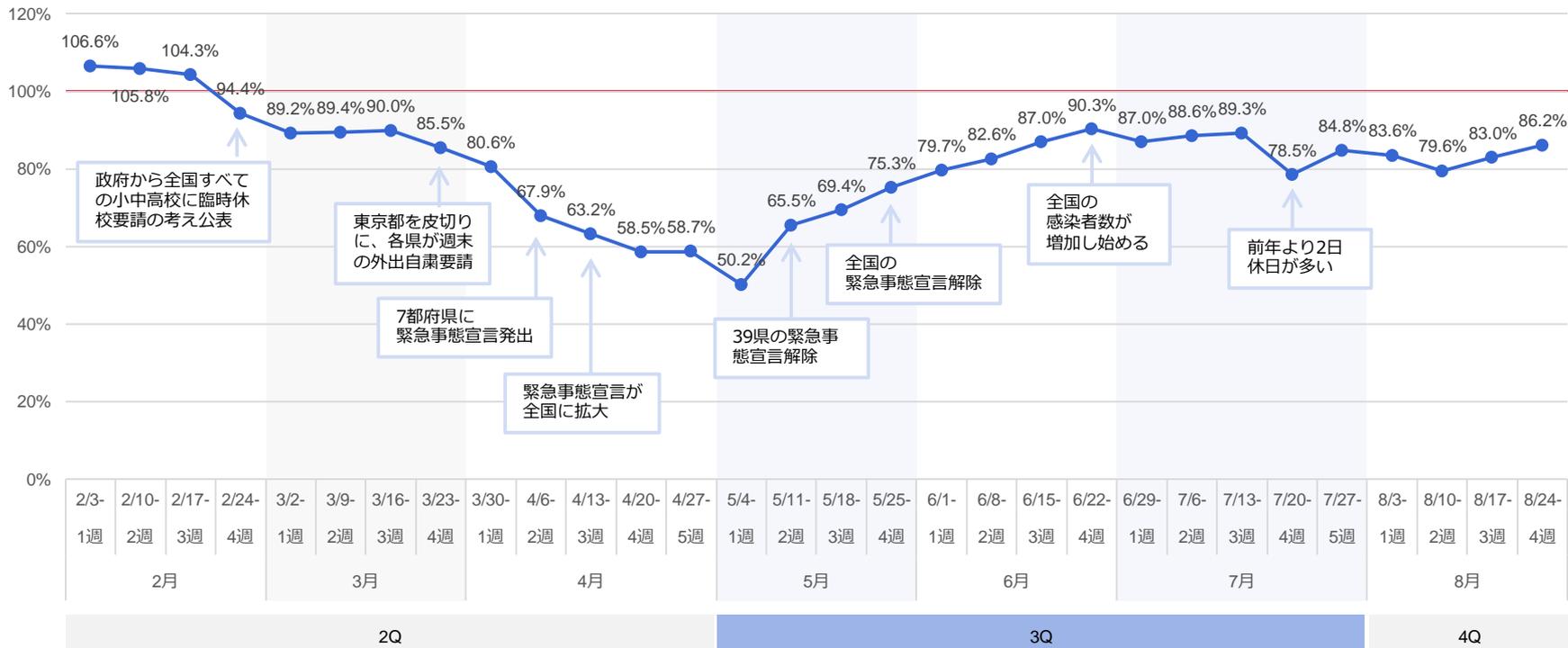


- ▶ 6月業績が想定以上に回復したことに加え、地代家賃改定等のコスト抑制が修正計画より進捗したことにより営業利益は修正計画超
- ▶ 新規物件の厳選開発、赤字物件の縮小により、
タイムズパーキング 19,361件(前年同期末差+924、同比105.0%)、610,171台(同差+15,948、同比102.7%)

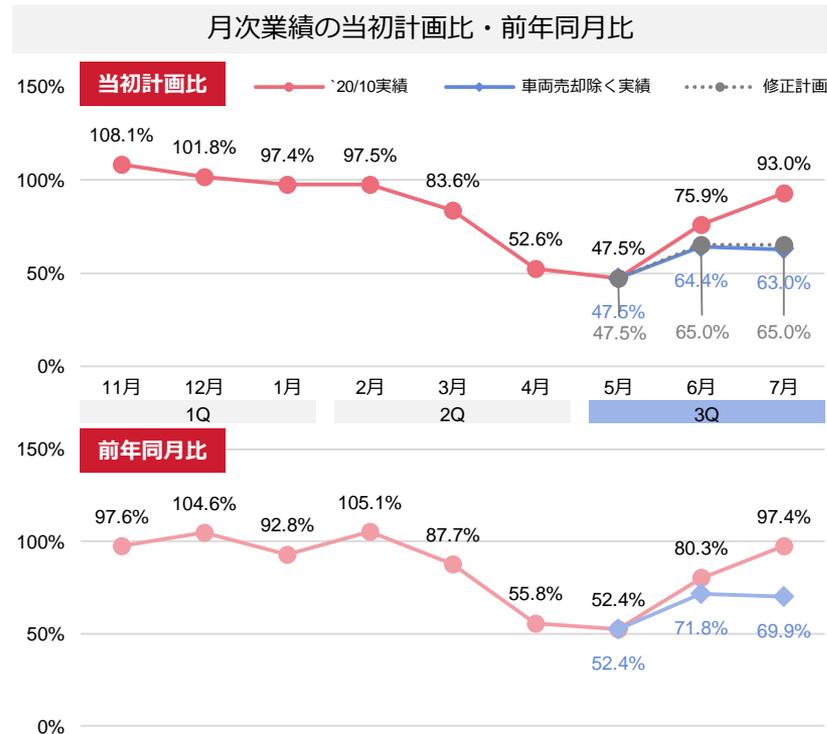
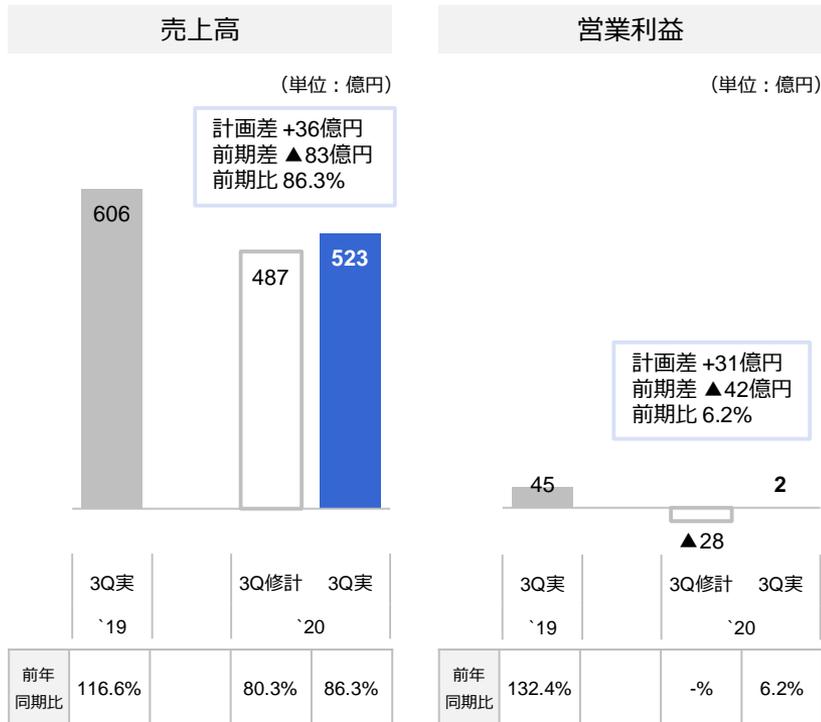
売上高は5月1週を底に6月まで好調に回復、7月は感染者数が増加したことに伴い回復鈍化

前年同週比

2月から8月までの売上高前年同週比の推移



売上高は5月を底に回復基調、6-7月は車両売却が想定以上の進捗で売上高押し上げ



- ▶ 車両売却が想定以上に進捗したことにより、売上高は修正計画超、利用売上高は想定通りの回復
- ▶ 需要に合わせて保有車両台数を適正化したことに関する費用や人件費等のコスト抑制が修正計画より進捗したことにより営業利益は計画超
- ▶ モビリティ車両 45,261台(前年同期末差▲17,091、同比72.6%)、貸出拠点 13,346拠点(同差+643、同比105.1%)

売上高は5月を底に回復するも、6-7月は車両売却が想定以上の進捗で売上高押し上げ

売上高

(単位：億円)

前期差 ▲78億円
前期比 75.3%



前年 同期比	115.7%	75.3%
-----------	--------	-------

営業損失

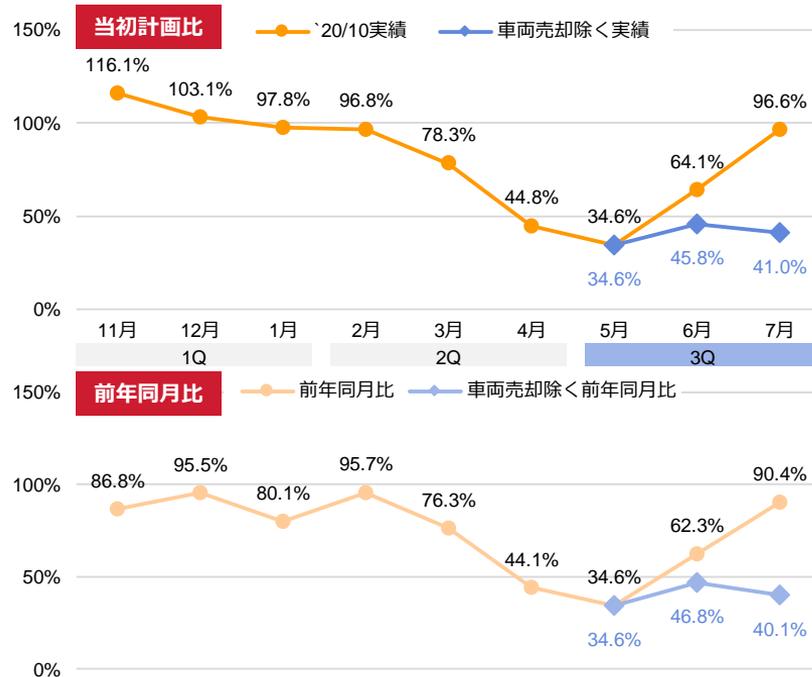
(単位：億円)

前期差 ▲33億円
前期比 -%

▲5 ▲38

3Q実	3Q実	
'19	'20	
5	38	
前年 同期比	-%	-%

月次業績の当初計画比・前年同月比



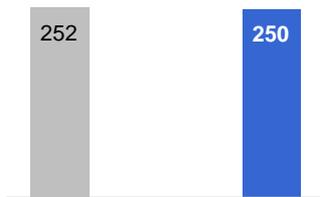
- ▶ 6-7月は中古車市場の回復により車両売却は想定以上に進捗し、売上高を押し上げる
- ▶ 車両売却を除く利用売上高は想定より若干下回る回復、インバウンドや国内の旅行観光需要は引き続き低調のため夏季の稼働も低調
- ▶ レンタカー車両 17,792台(前年同期末差▲18,661、同比48.8%)、貸出拠点 365拠点(同差▲17、同比95.5%)

売上高は5月を底に大きく回復、7月の売上高は前年同月比超まで回復

売上高

(単位：億円)

前期差 ▲1億円
前期比 99.3%



	3Q実	3Q実
	'19	'20
前年 同期比	122.2%	99.3%

営業利益

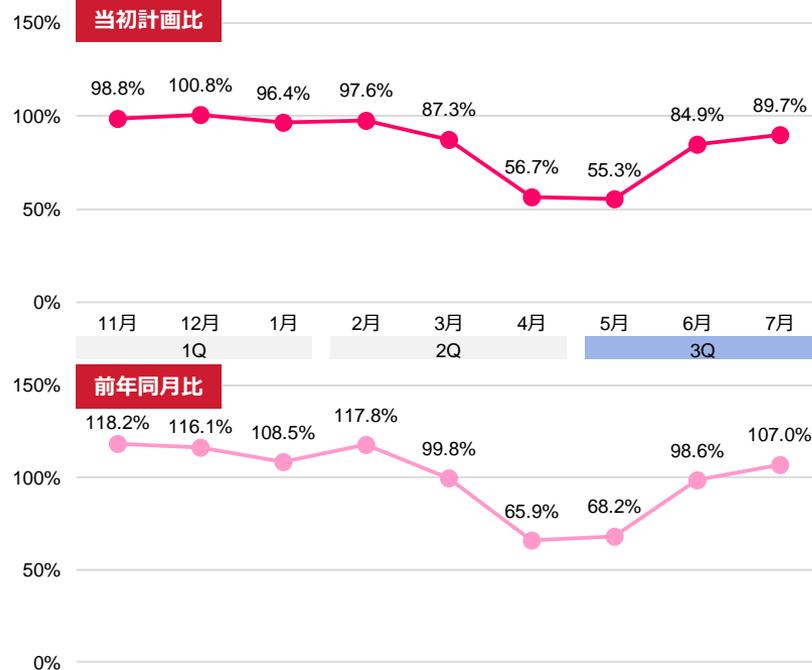
(単位：億円)

前期差 ▲10億円
前期比 77.5%



	3Q実	3Q実
	'19	'20
前年 同期比	163.7%	77.5%

月次業績の当初計画比・前年同月比



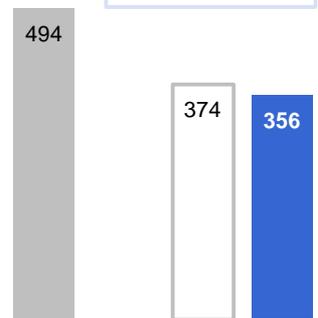
- ▶ 法人・個人ともに利用回復、特に個人の利用は休日を中心に大きく回復、近距離旅行需要の取り込みが奏功
- ▶ 利用促進を図るため、長時間利用キャンペーンや駐車場利用と組み合わせた新・ナイトバックキャンペーンを実施
- ▶ カーシェア車両 27,469台(前年同期末差+1,570、同比106.1%)、貸出拠点 12,981拠点(同差+660、同比105.4%)

売上高は4月を底に回復基調となるも、6月売上高は想定を下回る

売上高

(単位：億円)

計画差 ▲17億円
前期差 ▲138億円
前期比 72.1%



	3Q実 '19	3Q修計 '20	3Q実 '20
前年同期比	103.0%	75.6%	72.1%

営業利益

(単位：億円)

計画差 +27億円
前期差 ▲73億円
前期比 -%



	3Q実 '19	3Q修計 '20	3Q実 '20
前年同期比	-%	-%	-%

月次業績の当初計画比・前年同月比



- ▶ 地代家賃改定や駐車場の無人化によるコスト削減等が修正計画より進捗したことにより営業利益は計画超
- ▶ 5月は各国で段階的に行動制限が緩和、6月はさらに行動制限の緩和が進む一方で、豪州のビクトリア州では緩和が遅滞する等の事象が生じたことにより稼働が想定通り回復せず計画未達

※海外は1カ月遅れて連結 海外の連結対象期間1Q=2019年10月~12月、2Q=2020年1月~3月、3Q=4月~6月

第3四半期に引き続き、グループ全体及び各事業における取り組みを強化

グループ全体

1. グループ費用の厳格な選別によるコスト削減
2. 来期以降の利益成長に向けた取り組みの検討

駐車場事業国内

1. 新規開発の厳選
2. 恒常的赤字物件の縮小
3. 新規取組事項の一時凍結
4. 事業内費用の徹底見直し
5. 地代家賃改定のお願い

モビリティ事業

1. タイムズカーの強力推進
2. 保有車両台数の適正化
3. 店舗運営の効率化
4. 事業内費用の徹底見直し
5. 利用促進の取組強化

駐車場事業海外

1. 各国版タイムズパーキングの開発促進
2. 駐車場運営方法の見直し
3. 地代家賃改定のお願い
4. 収益管理の厳格化

第3四半期累計は修正計画超で着地するも、事業環境は依然として不安定であるため修正計画を維持

(単位：億円)

	`20/10当初計画 通期	見直し			合計	`20/10修正計画	
		COVID-19影響	コスト削減等	その他		通期	前期比
売上高	3,330	▲700	-	-	▲700	2,630	82.9%
売上原価	2,467	▲57	▲83	-	▲140	2,327	97.2%
売上総利益	863	▲643	+83	-	▲560	303	38.8%
販売費及び一般管理費	596	▲13	▲38	-	▲51	545	97.7%
営業利益又は営業損失(▲)	267	▲630	+121	-	▲509	▲242	-%
営業外損益	▲12	-	+4	-	+4	▲8	-%
経常利益又は経常損失(▲)	255	▲630	+125	-	▲505	▲250	-%
親会社株主に帰属する四半期 純利益又は四半期純損失(▲)	165	▲630	+125	+85	▲420	▲255	-%

- ▶ 売上高 ▲700億円
下期5月は実績(海外は4月実績)で当初計画比約50%、6月以降は経過月ごとに約5-10%で改善、当期末の10月は同約85%の見込み
- ▶ 営業費用 ▲190億円
売上高減少に伴う費用の減少(変動費分)、各事業の運用効率化、グループ全社経費削減を強力に推進
- ▶ 上記収益状況を鑑み、当期配当は無配の計画

免責事項

本資料に記載されている業績目標・戦略並びにその他の記述のうち過去の事実でないものは、いずれも当社が現在入手可能な情報を基にした見通しとなります。

実際の業績等は、経営環境の変動やその他の不確実な要因により、これら見通しと大きく異なる場合があります。